

令和5年12月7日

筑紫野市議会  
議長 赤司 泰一 様

広報委員会  
委員長 原口 政信

令和5年度 広報委員会行政視察研修報告書

広報委員会行政視察研修について、下記のとおり報告します

記

1. 視察日

令和5年11月16日（木）13時30分から

2. 視察先及び研修項目

○埼玉県小川町「議会だよりについて」

3. 視察者

議員 原口 政信 委員長、前田 倫宏 副委員長、西村 和子 委員、

坂口 勝彦 委員、段下 季一郎 委員、赤司 祥一 委員

随行者 井形 光介 議事課主事

4. 内容 別紙のとおり

# 埼玉県 小川町

視察日 令和5年11月16日  
説明者 広報委員会  
議長 高橋 功人 様  
委員長 山口 勝士 様  
議会広報発行特別委員会  
議会事務局長  
岸澤 均 様

## 【町の概要】

小川町は昭和30年2月11日、比企郡小川町、大河村、竹沢村、八和田村の1町3村を合併し、昭和31年1月1日、寄居町大字西古里と鷹巣の各一部を編入して、現在の小川町が誕生した。

埼玉県の中央部よりやや西に位置し、首都60km圏にあります。周囲を緑豊かな外秩父の山々に囲まれ、市街地の中央には槻川が流れる風光明媚な街。伝統産業として、1300年の伝統を誇る小川和紙、絹、建具、酒造などある一方で、ホンダ小川工場稼働開始により、最先端の環境対応エンジンを供給する「世界のホンダ エンジン工場のまち」としても注目を集めている。また、歴史を秘めて佇む史跡や往時の面影を留める街並みなど、その風情から、いつしか「武蔵の小京都」と呼ばれるようになった。

小川町：人口 27,922 人、面積 60.36 ㎢ （令和5年11月1日現在）  
議員定数 16 人

## 【視察目的】

現在、108号まで発行しているが79号から紙面リニューアルし、近年は毎年、全国町村議会議長会主催の「町村議会広報全国コンクール」において、優良賞を受賞している。掲載内容、委員会での取り組みを具体的に聴き、本市の議会だよりの編集・発行の参考としたい。

## 【掲載内容】

- 表紙 ●特集 ●議案質疑 ●賛否に分かれた議案 ●一般質問
- わたしのひとこと ●議員に聞く×つなぐ ●編集後記 ●ミニコラム

## 【編集方針】

- ①「町民の笑顔と一生懸命な姿」をテーマに、まず手に取ってもらえるために写真を表紙とした。また、2、3ページの見開きを最重要ポイントとして力を入れている。
- ②住民目線でわかりやすい表現を心がける。行政用語を極力避け、わかりにくい文言には、欄外に解説を入れる。
- ③一般質問は、議員3人で1ページを基本に余白も考慮し、質問の関連写真を1枚挿入し、読みやすさに配慮している。

④「わたしのひとこと」で、町民に参加してもらうコーナーを設けている。また、議員が町民の中に入り取材する。「議員の聞く×つなぐ」のコーナーではアンケートを実施し、議会報に興味を持ってもらえる環境づくりをしている。

⑤協議は全員で行い、研修などで良いと思われることは積極的に取り入れていく。

**第79号からは、表紙リニューアルに伴って、以下の「6つの約束」を掲げ、あわせて編集方針としている。**

①読みやすい文字

行間広めで読みやすいユニバーサルデザインフォントを使用。

②やさしい表現

難しい言葉はわかりやすく、専門用語には解説を付ける。

③見やすい誌面

大きめの見出し文字、適度な余白などで見やすいレイアウトに。

④親しみあるデザイン

20代・30代の方にも手にとってもらえるデザインをめざす。

⑤皆さんの声を大事に

町民の皆さんにご登場いただく場面を増やす。

⑥色への配慮

多様な色覚を持つ方にとって少しでも読みやすくなるよう、色の使い方にも配慮。

#### 【質問事項】

(1) 議会だよりの概要について

(2) 議会だよりの編集全般について

(3) 住民登場企画について

(4) その他

#### 【質疑応答】

Q：発行回数、ページ数、単価、編集スケジュールなどは。

A：年4回、定例会の翌々月1日発行、16ページ（予算、決算時は20ページ）

編集委員会は3回開催。編集会議（任意）は担当委員が協議を行う（非公式）

第1回編集委員会でたたき台、原案の作成、分担、担当者を決める。第2回編集委員会から委託業者も参加。プロジェクターを使い編集する。

Q：写真・記事作成の委員と事務局の分担はどうなっているか。

A：写真・記事作成ともに役割分担を決め、各委員が担当している。

事務局は議会報告発行特別委員会に出席し、計数等の事実確認のほかに、各議員から上がってきた原稿や写真を業者に転送するのみで、記事作成には参加していない。

Q：記事作成のルールブックはあるのか。（申し合わせ事項）

A：編集方針として、申し合わせ事項はないが編集ルールはある。「です。」「ます。」統一。議員が写真提出。一般質問はフォーマットを配付している。答弁書に出ているものを記載。担当委員が確認編集する。

Q：取材はどのように行われているのか。

A：担当する議員が現地（取材対象）へ足を運び、インタビューを行っている。

一例を挙げると裏表紙の「わたしのひとコト」は毎号2地区を選定し、区長や民生委員といった行政に近い方ではない方に登場していただいている。また、議員審議の記事に関する町民コメントは、担当する編集委員を決め、人選を一任し、住民の声を取材している。

Q：障がい者等への対応について行っていることはあるか。

（本市では視覚障がい者の方に音声テープを配付している）

A：朗読ボランティア団体の協力により、議会だよりを朗読したものをCDに録音し、図書館で希望者に配布している。

Q：こども議会を開催されているが、どのように進められたか。

A：社会科授業で「小川学」というものがあり、生徒たちでの議論を授業形態の一環で取り組んでいる。学校側もこども議会は特別なものではない、授業のレベルアップとの位置づけ。

Q：79号からデザイン、書体、紙質をリニューアルしているが進め方は。

A：会議録センターからの案内がきっかけとなった。半年かけて、紙の質感、色目も含め、内容は「6つの約束」の編集方針を改めて掲げ、「議会を軽んじてないか」との意見もあったが今まで手に取ってもらえなかった方にどうアプローチをかけるかが大きなテーマだった。賞もとれ、時代にしっかりマッチしたこと。議会がどうとられるか。いろんな考えはあるが広報紙の重要性とながれができたと感じる。

Q：議員のイラスト（顔スタンプ）を使う事や工夫は。

A：議員だよりではない。議会だよりの内容で、写真で出すかスタンプはその時のバランスで考える。

Q：中身2色だが、色への配慮は。どのように決めているのか。

A：字体も含め、委託業者に機械的にお願いしている。できあがった色見を検討する。

Q：一般質問の記事に必ず写真があるが、ルール化しているのか。

A：必ず写真は載せる。質問に対して本人の思いと事実のある写真を載せる。文字より写真に先に目がいく。

Q：委託業者との約束事は。

A：会議録センターで随意契約。予算は割高だがその場ですぐ修正ができるので効率が良い。

Q：寄居町とのやり取りは。

A：直接的なやり取りはしてないが、お互い切磋琢磨している。

Q：「議会だより筑紫野」を見ての感想は。

A：読者に理解を得てどう誘導するかを考えたら、フルカラーを活かしたアイキャッチの部分をもっと工夫したら良い。

Q：本市では、議案等、委員会報告は各常任委員会が作成しているが、議案等の扱いは。

A：議案は、編集会議で協議し担当を決める。各常任委員会の報告等は、広報委員会に各常任委員が2名いるので担当を決めて作成する。

### 【まとめ】

紙の質感にこだわり、小川和紙の「工芸紙」をイメージし、四季にあわせて模様や色彩を毎号変え、飽きのこない表紙にしている。「町民の笑顔と一生懸命な姿」をテーマに、手に取ってもらえるよう、委員のチームワークで町民を主役に写真や取材など、徹底して取り組んでいる。(毎号2地区) また、読みやすい文字、やさしい表現、20代・30代の方にも手にとってもらえるデザインなど、本市の議会だよりの在り方を考えさせられた。全部取り組むことは難しいが、できることから「魅力ある議会だより筑紫野とは」を協議課題としたい。

### 【視察状況写真】



令和5年12月7日

筑紫野市議会  
議長 赤司 泰一 様

広報委員会  
委員長 原口 政信

令和5年度 広報委員会行政視察研修報告書

広報委員会行政視察研修について、下記のとおり報告します

記

1. 視察日  
令和5年11月17日（金）10時から
2. 視察先及び研修項目  
○埼玉県草加市「議会だよりについて」
3. 視察者  
議員 原口 政信 委員長、前田 倫宏 副委員長、西村 和子 委員、  
坂口 勝彦 委員、段下 季一郎 委員、赤司 祥一 委員  
随行者 井形 光介 議事課主事
4. 内容 別紙のとおり

# 埼玉県 草加市

視察日 令和5年11月17日  
説明者 議会広報常任委員会  
議長 白石 孝雄 様  
委員長 菊地 慶太 様  
書記 麻生 拓弥 様  
議会事務局長 武田 一夫 様

## 【市の概要】

草加市は、埼玉県の東南部に位置し、市域の南部を東京都足立区に接している。水と緑に恵まれた中川、綾瀬川下流域にひらけた東西7.24km、南北7.6km、総面積27.46㎢の都市である。昭和33年11月1日、人口3万4,878人で市制を施行。昭和37年の東武伊勢崎線と地下鉄日比谷線の相互乗り入れや、当時マンモス団地といわれた松原団地の造成等により、昭和38年に人口が5万人を突破し、昭和43年には、県下8番目の10万都市になった。東京近郊という立地条件の良さも相まって、昭和50年代後半から人口は急激に増え、現在では24万人を超える都市となっている。

草加市では、地球環境をはじめ、少子・高齢化、高度情報化、国際化といった時代の変化をしっかりと見据えながら、「いつまでもこのまちで暮らしたい、このまちで子どもを育てたい」と思われるような快適都市の実現をめざし、市民と行政のパートナーシップにより、まちづくりを進めています。平成26年3月18日に草加市に所在する「草加松原」が「おくのほそ道の風景地」の一群として国の名勝に指定されました。「草加松原」は綾瀬川沿いに位置する約1.5kmに及ぶ松並木で、松尾芭蕉も訪れた旧草加宿に隣接する日光街道の名所として江戸時代から知られている。

草加市：人口250,966人、面積27.46㎢（令和5年1月1日現在）  
議員定数 28人

## 【視察目的】

現在、250号まで発行されており、新聞型のタブロイド判・2色刷り（黒・青）での発行を続けている。表紙写真や題字の募集、街頭インタビューや職員インタビューなど、本市の議会だよりの編集・発行の参考としたい。

## 【掲載内容】

- 表紙(目次、題字・写真の作成者、写真募集)
- 特集企画
- 企画
- 議案
- 議会HP案内
- 一般質問
- 企画
- 題字作成者紹介
- 次回定例会日程
- 編集後記
- 問い合わせ

## 【質問事項】

### 1. 議会広報について

- (1) 議会だよりの概要について
- (2) 議会だよりの編集全般について
  - ・写真・記事作成の議員と事務局の分担はどうなっているのか。
  - ・記事作成のルールブックはあるのか。
- (3) 住民登場企画について
  - ・取材はどのように行われているのか。
- (4) その他
  - ・障がい者等への対応について行っていることはあるか。

## 【議事録】

- ・デザイン及び印刷は株式会社埼玉新聞社に委託している。
- ・配布は草加市シルバー人材センター、NPO 法人松原見守りネットワークへ委託。
- ・予備は駅や公共施設に置いている。
- ・改選時には単独で4ページ版を作成する。印刷4.1円、配布5.1円。
- ・元々校正に5回かかっていたが、慣れてきて今は3回で大体済んでいる。
- ・LINE ワークスを使っており、最後の広報委員会は集まらずにLINE ワークスで行っている。
- ・定例会開会日を第一回目として集まっている。(一般質問の人数でページ割が変わるから。余ったページでどんな企画を組むかなどまで話し合っている)
- ・一般質問のタイトルの『。』や『?』までは、あえて統一していない。(意見は言ったりする)
- ・表紙について。題字を各中学校の校長先生に依頼。11の中学校がある。校長が学内の誰に書いてもらうかを決める。近くに住んでいる広報委員が直接取りに行く。裏表紙に書いてくれた生徒のコメント等も入れる。写真は市民に随時募集していて誰でも送れるようにしている。
- ・毎回何かしらの特集記事を入れている。(予算・決算の月はそれが入る)：6月・12月などの予算決算がない月は、市職員インタビューなど広報委員で何を入れるか決めている。しかし職員インタビューについては、ひと通り全部署行ったので、2週目は行わず今はストップしている状況。
  - ↳事前に何を聞きたいかを送っておき考えてもらっていた。
  - ↳どこの部署が何をやっているかが分かる良い企画だったと思っている。
- ・一般質問について。各会派の広報委員が責任持つ。(無会派は事務局が集めている)
- ・審議結果一覧、次回スケジュール、題字を書いてくれるそうかつ子…対応は事務局
- ・特集記事で小学校訪問を書いた。GIGA スクール構想でタブレットが配られた後、実際に使ってみてどうかを尋ねてみた。
  - ↳許可を貰って子どもたちの顔写真を載せた。⇒親御さんが見てくれるものになる。
  - ↳市内の全小学校へのエアコン設置についての感想も尋ねた。



- ・獨協大学や文教大学へのヒアリングについて。コロナですんなりいかなかったが、文教大学とようやく実現した企画。議長・学生の対談を広報委員会も行って取った。若者の政治参加の一環。草加市の産業振興課とつながりのあったゼミ生からアプローチして実現。
- ・街頭インタビューについて。草加市に求めるもの、草加市議会に求めるものをヒアリング。広報委員会全員で集まり、腕章付けて、駅前などで場所を分担してインタビュー実施。顔出しOKの人は写真を載せたりもした。結果、住民参画に繋がっていった（やってほしい60のことで沢山住民を掲載できた）
- ・なつやすみ議会見学会について。議員定数に合わせて28名参加を二回行った。
- ・障がい者対応について。実施要項作成、点字版・音声テープがある。
  - ↳点字版：平成2年から…希望者8名＋中央図書館、議会図書室の計10部作成。1頁22円⇒43,428円、障害福祉課を通してやり取り。（ブルーバードホームに委託、図書館関係、1部60ページ程の構成になる）
  - ↳音声テープ：『声の広報』ボランティアの協力で音声データを作り、障害福祉課を通して。対象数は不明。
- ・今後の検討課題について。広報『そうか』がR6.1.1号からカラー化することになり、こちらもカラー化せねばならなくなったとのこと。色合いなどの調整が、プロではない我々は難しい。市の広報がフリーペーパーっぽくなるのに合わせるかもまだ検討段階。

## 【質疑応答】

Q：題字を書く取り組みについてもう少し詳しく教えてください。

A：子どもや学校から好評。2名で書き、2名掲載することもある。タイトルをカラー化した後は美術部に任せることも検討中。A3にでかでかと書いてもらい縮小したり、ペイントで汚れを消したりしている。

Q：写真はどのように募集しているのか。

A：基本的には表紙で募集している。HPでも募集しているが、なかなか来ない。また、違う人が同じ風景写真を送ってくれたりするが過去と重複するとどうしても載せにくかったりするので注意が必要。公募で採用したらタイトルや氏名を載せている。

Q：一般質問などの内容について、どこまで広報委員会等でチェックしているか。

A：議事録に載っている載っていないまではチェックしていない。（広報も事務局もやっていない。）あまりに新登場っぽいものは、事務局を通して会派へ指摘したことはある。

Q：オンラインでの広報委員会開催について詳しく教えてください。

A：オンライン委員会開催は最近の話。広報委員会でもオンライン参加をやってみた。子どもの風邪などで実際2名がオンライン参加だった。前日の13時までに申し出ないとオンライン出席はできないようにしている（事務局による準備のため）。広報委員会設置基準がそもそも筑紫野市さんと違い、草加市は常任委員会の一つとして位置

付けられているのでオンライン化がスムーズにできたのだと思う。常任委員会化して良かった点として、市長を責める記事が挙がってきた際にしっかり載せないという採決ができたこともある。

Q：点字版について、対象者が年度途中で増減したらどうなるのか。

A：年度途中で増減はこれまでにないから問題にはなっていない。

Q：草加市の SNS 関連はどうなっているか。どの部署がやっているか。

A：SNS は市議会としてはやっていない。やろうという話も出たことがない。HP は事務局運営だが何を載せるかなどは広報委員会で決をとる。広報の所管事項の中に HP 管理もある。

Q：声の広報の配布対象者は。

A：申し訳ないが人数などこちらで把握していない。

Q：タブロイド版にしている理由は。

A：平成 13 年からずっとタブロイド判でやっている。安いから。大きな紙に印刷してカットするだけで折り込みの手間もかからない。

Q：LINE ワークスでやり取りするメリットは。

A：そもそも全議員に LINE ワークスを入れてもらっており、その中に広報委員会のグループを作っている状況。誰が既読したかまで見れるので、見ていない人がいたら事務局から連絡ができる点もメリット。他、ファイル共有はサイドボックスを採用している。フリー 0 円 / スタンダード 450 円 / アドバンスト 800 円

Q：デザイン会社とのやり取りは事務局のみか。それとも議会事務局にイラストレーターなどを使える人がいるのか。

A：事務局の方が PPT を作り、埼玉新聞社とやり取りしている。

## 【まとめ】

広報委員会が常任委員会化されており、オンライン委員会が行われたり、しっかりと決を取れる体制になっている点は印象的だった。広報誌については、大きなタブロイド判であることが印象的であったが、先方としては最初から安いためそうしているとのことで、逆にフルカラーで作成している筑紫野市と比較する良い機会となった。また、題字を中学生から書いてもらう企画は非常に良い企画で、配置などある程度の条件を決めた上で書いてもらうことで統一感を保持したまま、市民参画で議会広報誌が作成できるという点は、本市にも取り入れていきたいものであった。その他、点字版や音声テープなど様々な先進的な対応もあり、導入時には参考にさせていただきたい。全く違う体制で、全く違う体裁の広報誌を作成している草加市を参考にさせていただき、次号以降の本市議会だよりに活かしていく。

【視察状況写真】

